

関東支部見学会記

関東支部恒例の秋の見学会が10月14～15日に行われた。吉田支部長以下27名の一行は、台風19号の接近を気遣いながら、東京駅八重洲北口からバスで8時20分に出発、足柄、牧之原パーキングエリアで小休息した後、茶畑を左右に眺めながら東名高速を一路浜松に向かった。

昼近くにヤマハ住宅機器の日本楽器西山工場に到着、会社概要の説明を受けた後2班に分かれて、鋳物法瑠バス、FRPバスの製造工程を興味深く見学した。FRPバス特にハンドレイアップバスには強い関心が持たれ、見学後も活発な質問が続いた。

15時に同工場を辞して、浜松城と日本三大砂丘の一つである中田島大砂丘の見物に向かう。生憎、屋前から降り始めた雨は激しさを増しだし、浜松城は麓から眺めるのに留めて代わりにD51機関車の観覧で満足してバスに引き返した。残念ながら大砂丘の見物は諦め、浜名湖畔の宿舎に向かう。

浜名湖大橋を渡って弁天島の浜名荘に1泊。ここで2名合流して総員29名、懇親会後も部屋に集まって2次会、遅くまで楽しく懇談、懇親を深めた。

15日(水)晴天。8時に出発、日本碍子小牧工場へ。同工場の主力製品であり、世界のトップレベルを誇る特別懸垂碍子の最新設備による製造工程を見学する。50万Vの量産と100万Vの技術開発が進められており、70%が輸出とのこと。60年にわたる技術開発の歴史の結果が、自動化の進んだ静かな工程の中に偲ばれる。

午後、名大プラズマ研究所で概要説明を聞き実験施設を見学する。トカマク型核融合炉第1壁からの汚染によるプラズマ温度の低下阻止に、セラミックコーティングが有効な候補材料であるとのこと、研究的興味を覚えて帰途につく。予定より早く8時前に東京駅に着く。忙しい日程ではあったが有意義な2日であった。
(防衛庁 内田芳郎)